

京都へゆづゆの里へ 入居者インタビュー

時間に追われず

マイペースな生活を楽しむ

岡本 博子様 (64歳)



今回は、昨年5月にご入居された岡本博子様をご紹介します。

自然に魅せられて

「里のすばらしい景観と、広々とした敷地にゆったりと時間が流れている。ここは私の大好きな出石の街と環境がとつても似ている。」と、おっしゃる岡本様。「実家で両親を介護し看取った後、出家で両親を買って、終の棲家にするつもりで住んでいたんです。その頃は、まだ59歳。いずれは何処かに入らなきゃいけないとは思っていましたが、まだまだ先のことと思っていました。ところが偶然、新聞で「ゆづゆの里」の記事を見かけてね。新聞に載っていたのは、60歳代のご夫婦でしたが、『えっ？こんな若い人いるの？』という驚きと、ご夫妻の幸せそうな笑顔

と、バックに広がる緑の山並みの写真に釘付けになったんです。私の頭の中では、老人ホームは自由がなくて、やりたいことも制限される別世界のイメージがあったので衝撃でした。もうこれは確かめなきゃいけないと思って。見学して、一目でこの環境が気に入りました。新聞に出てらっしゃったご夫婦や他のご入居者にも話を伺ったら、『100%いいことばかりじゃないけど、せつかくだから早く来て楽しまなきゃ損よ。』って云われました。それに、ここなら介護になっても心配いらないし、最後までお世話になれる。身内で助け合うには、限界がありませんからね。」

一番の楽しみ

入居されてからは、どの様に

過ごされているのかお伺いしました。「一番の楽しみは、早朝のウォーキングですね。それと俳句。遊歩道から茶畑を通り抜け、緑の木立ちの中を散策すると、四季の移り変わりや、植物の芽吹きを感じられるの。俳句を詠むにはこの環境がとても重要。目につくものすべてが題材になるほど、里の自然はスケールが大きい。」



内なずりやかえり鮮やかな鳥のさえずり。散歩の道。自然の音が聞こえる。散歩の道。自然の音が聞こえる。毎日の緑が。

部屋に帰ってから、さつき見た風景を思い浮かべて、もう一句。

もともと、母の影響で始めたのですが、母が亡くなり悲しい気持ちと和らげるためにまた詠みだしたんです。母の前で俳句を詠むと、会話が返ってくるし、心がつながっている様に思えます。最近、自分の感性をもっと磨くため、里の俳句の会に入りました。皆さんの意見を聞けて、とても勉強になり



上・岡本様の詠まれた俳句
下・俳句サークルの様子



ます。入居して、一人じゃないという安心感を得られたし、心穏やかに暮らせることが一番。困ったことがあれば、何でも職員さんに相談出来る。私の決断は間違っていないかったなと思います。」と、笑顔の岡本様。



菊の形見の持ってきたお父様の苗(一坪農園)から育てたニンニク

いつまでもお元気で、里での生活を満喫していただきたいと願っております。